

よるのようちえん

谷川俊太郎 文
中辻悦子 絵・写真

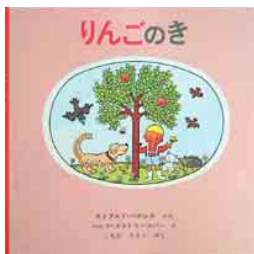


福音館書店 1998年 1300円

だれもない夜の幼稚園に、どこからかそっとさんがぎよろきよろりとやってきました。すっとさんもすつとんととききました。「さっさかせ」や「ぶんぶくりん」など楽しい言葉のリズムにのって、愉快的仲間たちが集まってきて遊びます。みんなの知らない夜の幼稚園の様子が写真とイラストで描かれていて、不思議な雰囲気のある絵本です。巻末に、「よるのようちえん」という歌が楽譜付きで載っています。

りんごのき

エドアルド・ペチシカ 文
ヘレナ・ズマトリーコバー 絵
うちだりさこ 訳



福音館書店 1972年 800円

小さい男の子マルチンの家の庭には、1本のりんごの木があります。冬には葉っぱがなく棒のようだった木は、春になると芽吹き、花をつけました。やがて夏が来てりんごは実をつけます。マルチンはお父さんと消毒をしたり、水をやったりして、りんごの木の成長を待ちます。素朴なあたたかい絵から、マルチンや動物たちのほのぼのとした雰囲気がつたわってくるチェコスロバキアの絵本です。

わたしとあそんで

マリー・ホール・エッツ 文・絵
よだじゅんいち 訳



福音館書店 1968年 1000円

草に朝露が光る原っぱに、幼い女の子が遊びに行きました。ぱったやかえるなど、虫や動物たちに「あそびましょ」と声をかけますが、みんな逃げてしまいます。誰も遊んでくれないので、池のそばの石に音をたてずにじっとこしかけていると、動物たちは次々に戻ってきて…。クリーム色の地に、柔らかい線で描かれたあたたかい絵が、女の子の心の動きをよく表現しています。読後に静かな満足感が広がります。